

スロ～なニュースレター



協会活動 ● いろいろ報告

天習せ学【環境「緑育」活動】

ドングリプロジェクト(第7弾) 平成25年3月2日(土)

平成25年3月2日(土)、ドングリプロジェクト(第7弾)活動として、「植樹」を行いました。我々(松阪子連の子供たちを中心として)は、平成21年にドングリプロジェクトに取り組み始め、3年間にわたってドングリの苗を育ててきました。その苗が1m近くに生長し、ちょうど植えごろになってきたのです。



松阪子連の子供たちとその関係者(22名の人が参加し、飯南高校の敷地内の山に植樹しました。飯南高校からは、2年生の中村君や谷口校長先生をはじめ4名の先生も参加していただきました。樹種は、コナラ、マテバシイ、クヌギ、ウバメガシなど里山では普通に見かけられるドングリ(ブナ科)の木です。



北風の強い雪花が飛び交う寒い日でしたが、中西先生(久居農林高校)の指導の下、子供たちは元気に唐鍬で植え穴を掘り、苗を植えました。そして、苗の周りを足で踏み固め、竹で作った支柱をそえ、大きく元気に育てると祈りをこめながら株元へ水やりをして「植樹」を終えました。今回植樹した木は、10～15年後には幹の太さが直径15cmほどになり、シタケの原木としてだけでなく、里山の環境林として大切な役割を果してくれるということが期待できます。



モミの木の植樹 平成24年12月12日(水)

松阪農業公園「ベルファーム」のレジ袋有料化に伴うコスト削減で生じた経費の一部を活用して、緑育(環境創造)活動を行っています。平成24年度は、「モミの木」を植樹しました。モミの木は、一度以上きつい霜にあたってからが植樹時期に入ります。そういうことで、植樹は12月12日(水)に行いました。

三重スローライフ協会会員でもある(株)東海美松園の久保田さんの協力により、我々(会員5名、ベルファーム職員5名)は4メートルにも及ぶ大きなモミの木を植えることができました。植樹した場所は、ちょうどガーデンカフェ「ルーベル」の南側芝生広場で、ルーベルへの直射日光の照射を和らげ、緑の空間を広げてくれます。また、植樹したモミの木は、毎年飾りつけや手入れをすることにより、クリスマスや正月のイメージを醸し出すとともに、季節感を漂わせてくれることにもなります。

世産世食【食文化を見直す活動】

「農業塾」

「暮らしと野菜」についての視察研修会 平成25年2月2日(土)

平成25年2月2日(土)に、1月度講座「暮らしと野菜」についての視察研修会を行いました。研修場所は、萱津神社(愛知県あま市甚目寺町)、宮重大根発祥地・栽培記念碑(愛知県清須市春日町)、(株)扶桑守口食品「漬処壽俵屋」(愛知県丹羽郡扶桑町)でした。

萱津神社は、漬物の祖神「鹿屋野比売神(かやぬひめのかみ)」を奉った神社で、毎年8月21日には漬け物神事「香の物祭」があることで有名です。

愛知県清須市春日町は、青首大根の原種となった宮重大根の発祥の地であり、昭和天皇ご即位の関連行事としての大嘗祭に宮重大根を献上し、その栽培を顕彰した「宮重大根栽培記念碑」があります。(株)

扶桑守口食品は、守口大根漬けを代表する漬け物会社で、守口大根の栽培地に隣接していて、守口大根のイメージアップのために建立した「守口大根シンボルタワー」をまじかに見るともできます。



ベルファームを9時に出発して17時に帰着するという貸し切りバスによる日程でしたが、愛知県の特産野菜に関する地域や場所・記念碑を視察研修することができました。さらに、農業塾の塾生等(15名参加)にとっては、学習した事柄(内容)や野菜に関する知見を深めることができ、有意義な研修になったように感じました。(M&F)



農業塾研修会の感想

●昨年9月の開講から半年。ソフトなお話と実技は、毎回楽しみでなりません。2月2日には、第5回農業塾で学んだ「暮らしと野菜」の内容をさらに深めようと、農業塾の仲間たち15名と愛知県への視察研修へ。まず、漬物の祖神にお参り。蘇民から供えられた野菜と塩は、自然の恵みと神からの恩召して「神の物」＝「香の物」が誕生したという二千年前の歴史に驚き、美人の漬物祖神に合掌!

宮重大根発祥の地で栽培記念碑を訪ねたあと、全国の生産7割という守口漬の見学に。木曾川河川敷の砂質土壌は1.2mもある守口大根の栽培に適し、琥珀色と旨味を生むのに3年の歳月かかるそう。守口漬とお土産話で盛り上がった我が家のお夕飯。神の恵みと自然に感謝の、心豊かな食卓になりました。(近田清美)

●「わああ ふかふか」その声に誘われて私も土に触りに行きました。シフォンケーキに触っているような感触。「ホントにふかふかやー」

愛知県丹羽郡扶桑町。木曾川の河川敷に広がる守口大根畑には、木曾川の恵みと農家の努力で、あの長～い守口大根が立派に育つ豊かな土壌が広がっていました。伸長を超えるダイコンがまっすぐ育つ土壌。考えたらすごいことだと思います。収穫から3年を経て、あの琥珀色の守口漬が出来上がるというの驚きですが、特産品や加工された土産物のほとんどは、口にしてそれで終わりになることが多いものですが、こうやって農家の人の顔が見える物に出会うと、「次も買わんといかな」と思ってしまう。

駐車場のど真ん中に残された碑も味わいがありました。誤字があって、字の配置もなんだかアンバランスなものでしたが、今から考えると、《自分たちが育てた大根を献上した》ということ誇りに思い、後世にその事実を残したいというお百姓たちの喜びが感じられます。でも、誰も誤字に気づかないくらい盛り上がりつつあったのでしょうか?



いずれも初めて訪ねる場所で、他では《絶対に》味わえない有意義な研修になりました。企画していただいた先生方、有難うございました。来年も楽しみです。(森岡 美恵子)

スローな談話会 ● 開催報告

食の大切さを学び、様々な角度から検証することを目的としています。



毎回短時間ですが、質の濃い議論の深まりがあって充実したやり取りできていると思います。ネオポリスでの会合では南伊勢町の会員がいつも2~4名、片道2時間弱をかけて来ていただいています。70歳代の人が多いにもかかわらず、柔軟にテーマに対応され、参加者が学ぶことも多いです。

佐久間さんはベルファームで一番人気のフィットネスをさせていただいているのですが、体の調整と共に心と体のハーモニーを重視されていて、気持ちをヨガに集中させていくトークがとっても魅力的です。そこで佐久間さんが参加していただけたときには話の前に10~15分のヨガの部分実習をしていただくことになりました。

モクモクから松阪協働ファームに出向してくれていた中村周さんは農家市場やイベントの担当として、年末の出向解除までにベルファ

「継続は力なり」を信じて、偶数月は松阪農業公園ベルファームで、奇数月は津の豊里ネオポリスで談話会を続けています。

開催日	話題提供者	テーマ	参加者数
11/9(ネオ)	佐久間麻里	ヨガとの出会いー心身の健康づくりに取り組んで	11人
12/18(ベル)	中村周	松阪の食を楽しもう!	11人
1/11(ネオ)	倉田汎	子供は地域の宝物	12人
2/8(ベル)	横田はるみ	松阪市の学校給食について	6人
3/8(ネオ)	大原興太郎	地域の農業はどのようにすれば持続可能になるか	11人

(ベルはベルファーム開催、ネオはネオポリス・津の開催)

ムに多くのものを残してくれました。松江小学校への給食農産物の提供をきっかけとした子供たちとのさまざまな取り組み(書道展やベルファーム農業体験などへの参加)も進展しました。その農家市場の農産物の給食への受け入れに尽力いただいた当時松江小学校の栄養教諭であった横田はるみさんは現在教育委員会におられ、ベルファーム地元の伊勢寺小学校や阿坂小学校への給食素材の提供が来年度から実施されそうです。

倉田さんの「子供は地域の宝物」のお話も、松阪協働ファームが会社の方針に掲げている五方よしの「将来世代(こども)よし」の実践にもつながっていくお話でした。単なるお話しではなく、どのように現実を変えていけるのかという視点がいつも意識されていることがこの談話会の特徴の一つといえます。(O)

●2月のスローな談話会の報告

話題提供者 **横田はるみさん**

(松阪市教育委員会給食管理課)

テーマ:「**松阪市の学校給食について**」

横田はるみさんは松江小学校に栄養教諭として居られたときにベルファーム農家市場との連携により地産地食に先駆的に取り組まれました。その経験も交えて、松阪市における学校給食の現状と課題、子供たちの食への思いなどを語っていただきました。

●感想1

私は現在進行形で子育てをしています。まず「食べる」ことが「食育」には重要なことではないかと思えます。わが子が沼田さんのカブを生で食べてから野菜が好きになり「このカブはどうやってできるの?」とか「カブステーキと一緒に作りたい」と興味湧いたみたいで今ではいろいろ野菜や食べることに私に質問してきます。子どもの興味はすごいものだとこの時思いました。しかし子供に限らず大人であっても興味はどんどん知識を吸収するものであると考えます。

ベルファームに入り沼田さんと知り合い、野菜の食べ方を教えていただいたから「野菜」に「料理」に興味をもった私が今度はそれを子供達に教えたいと思うようになりました。それも私が「興味」をもったからです。「興味」が適切な言葉かどうか分かりませんが、まずは「食べる」「聞く」「体験する」を通じて「興味」をもってもらう継続して「食育活動」をしていくことが大事ではないかと思いました。(鎌倉崇)

●感想2

今までの横田さんの活動については、松江小学校在勤時にお付き合いがあった為、食育に対しての熱心さがすぐ伝わってきていました。食育の一環で、丸中さんへ生徒さんを引率し、松阪牛の解体を見せに行った話しは、下手をすると動物をあのような形で見

せること(私も丸中さんの肉の保管場所を見に行ったこともあります)は小学生の年齢には逆効果を与えるように思いましたが、先生のことですからうまく生徒さんに説明をされたのではないかと思います。生徒に食事に使われた肉の製造過程と原型を見せることは大切だと思います。

現在は、教育委員会におられるということで、現場とのギャップ(もどかしさ)を感じとれましたが、「食育シンポジウム」の企画や食育パンフレット「野菜を食べよう!」を作製したり、食育の基本方針計画を作成したり、現場での直接的な指導とは異なった精力的な意気込みを感じました。横田さんが言われていた食育の4つのテーマの中に「外国人と学ぶ多文化共生との視点で他の文化との比較を行う」がありましたが、小学校高学年の授業に英語が導入されたこともあり、「国際社会にも対応できるひとづくり」の大切さを感じました。(野呂康)

●3月のスローな談話会の報告

話題提供者 **大原興太郎理事長**

テーマ:「**日本農業は持続可能か**」

3月8日(金)18時00分~21時、津、豊里ネオポリス、大原宅において、「地域の農業はどのようにすれば持続可能になるか」のテーマで、大原が雑誌の特集企画にかかわり、全国の著名な農学の研究者から寄せられた寄稿のエッセンスを、日本農業の個性、TPP、日本的構造改革、新たな不在地主、コーディネーター、農業観の転換、地域の創生などのキーワードを用いて話がありました。

●感想1

非常に重いテーマであったが、自分自身興味もあり、初めてネオポリスでの談話会に出席させていただきました。私自身、本格的に農業をやり始め5年です



が、私の周辺ではかなり高齢の女性が畑作を行い、男性は水田を守っており、定年前の農業従事者は皆無と言って良い現状です。現状のままでは、10年後農業が継続できるか非常に疑問と思う。

参加者も、ベルファームでの開催と異なり、色々な考え・経験を持つ人が集まっており、非常に重いテーマであったが、色々な立場からの意見を聞き非常に有意義であった。特に、食事しながらの雑談は興味深いものであった。このような談話会は、本音で話そうとができるので、ベル農会でも行ってみたい。

(沼田芳久)

●感想2

環太平洋連携協定(TPP)に加盟するかどうか?あらゆる産業に関わることで、情報不足の中で国会はじめ農業関連のJA等が躍起となっています(国民も気にはしていますが、どうすべきかが判然としません)。大原先生がコメントされましたとおり、本日の研究会で結論は難しいとのこと、理解できました。国際社会の中で、日本農業の差別化をどのように進めていくかの方向性が定まっていなかった中で大変難しい問題です。将来の日本農業をどのように構築していくか、コーディネーター(リーダー)となるべき組織(人)の出現が希求されます。地産地消の農業対策(6次産業化)、安全安心な農産物の提供、農業者が守る農業から住民と共に支えあう農業への転換など、元気な農業者が元気な消費者を育てることになると思います。(伊藤晴茂)